

○小林委員長 それでは、日程1、陳情審査に入ります。企画総務委員会に新たに送付6-46、区内地域格差・各町会の特性を思索した「地域コミュニティの形成と継承」を思考する特別委員会の設置を求める陳情が送付されました。陳情の写しをご覧ください。陳情の朗読は省略いたします。

本陳情では特別委員会の設置を求めることとなっておりますが、当委員会に送付された趣旨としては、区議会の公式な会議体では特別委員会の設置は検討しておりません。審査になじまないということで陳情者へお返しするということになっておりますが、せず、丁寧に扱うということで、件名とは異なりますが、趣旨を酌み取り、陳情者が求める特別委員会の設置の中で検討してもらいたいという5項目の陳情項目を、要望を受け止めて審査することにしたいと考えております。そのように審査を進めていくことでよろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 はい。本陳情は、議会として5項目の検討を求められております。その内容は当区では地域振興部の分掌事務であり、地域振興部の理事者が、まず現状の状況を情報共有してもらい、また、必要に応じて執行機関に確認する事項は質疑していただき、5項目の検討を進めることにしたいと思っております。そのように審査を進めていきたいんですけども、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 はい。それでは、まず本陳情について、執行機関から情報提供等を頂けないでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 恐れ入ります。それでは、今回陳情で頂きました課題等におけます現状認識ですとか取組状況について、かいつまんでご説明させていただきたいと思っております。

まず、町会におけます加入者の伸び悩みですとか、担い手、役員の成り手不足といったことにより持続可能性への懸念につきましては、かねてより様々なところからお寄せいただいております。また、今年度、区議会各定例会におきましても様々にご議論いただいているなど、私もといたしましても大きな課題として認識しているところでございます。

こうした中、町会運営における困り事や課題につきましては、連合町会長会議をはじめ、今年度再開いたしました町会長また婦人部女性部長の研修会の中でも頂きましたご意見、また、試行的に実施させていただきました青年部の方との意見交換会のほか、各出張所長が町会の方々と日頃触れ合っている中で目にしたり耳にしたりすることを聞くなどにより、把握に努めているところでございます。

取組状況といたしましては、町会の加入促進をはじめ、町会運営の持続可能性に資する支援等について、近隣自治体の取組や事例も研究しながら検討を進めているところでございまして、令和7年度予算でお示しできればと考えているところでございます。また、併せて区ホームページ等での情報発信ですとか、運営マニュアルの作成などにも取り組んでいく必要があるというふうに考えておまして、これについても今作業を進めているところでございます。

今後、町会関係の皆様や議会からも引き続きいろいろとご意見を伺いながら、進めてい

きたいと考えているところでございます。

簡単でございますが、認識と現在の取組状況でございます。

○小林委員長 はい。今、情報提供を頂きました。委員の皆さんから執行機関に対する確認等がございましたら、質疑をお願いします。

○大坂委員 なる説明をありがとうございます。やはり千代田区において、町会ですとか地域のコミュニティ、これをいかに活性化させていくのか、持続させていくのか、先々につなげていくのかというのは、本当に喫緊の課題であり、世の中の情勢が変わっていく中で、それを支えていくというのは本当に大変なことだと思っています。ましてや町会で実際その実務に当たっている方々の苦労というのは、本当に計り知れないものがあるのかなと思っています。そうした中で、区としても一定の認識を持った上で、先ほど説明にもありましたけれども、令和7年度の予算にも、こういった形になるかまだ我々には分かりませんが、対応していただけるということは確認できたのかなと思います。

詳しいところについてはしっかりと予算委員会等々で精査をさせていただければと思うんですが、一方で、やはりこういった陳情が上がってくるということは、それぞれ切実な思いが各町会にはあるのかなと。それも、我々議員としても地域を回っていく中でいろんなところでいろいろな話は聞いていますので、それも共通の認識にはなっているのかなとは思っているんですけれども、一方で、この例えば担い手不足という問題を一つ取っても、それぞれの町会で実情は全然違うのかなというのも肌感覚として持っています。というのは、実際に本当に町会員が全く数がないような町会もあれば、たくさん人はいるんですけども、昔からやっている人たちが固まっていて次の後継者がなかなか育っていかないとか、そういった温度差があったりだとか、それに対して一律に対応していくということはなかなか難しいのかなというのも私としての肌感覚として持っているんですけれども、そういったところの認識は区としてはいかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 ご指摘いただいたとおり、千代田区に今107の町会がございます。その107町会、おっしゃるとおり、一律にこういった支援がというのはなかなか難しいというふうに私も想定をしているところでございます。よって、やはり恐らくお困りになられている町会はほとんどだと思っておりますが、そのお困り事をお聞きしながら、その町会ごと、団体ごとにこういった支援をしていくのがいいのかというのは、ピンポイントで対応していく必要があるんだろうなというふうに思っております、そういったスキームをどういうふうに組んでいこうかということも含めて、現在検討を進めているところでございます。

○大坂委員 ありがとうございます。それぞれの町会ごとにカスタマイズした支援をという話もありますけれども、なかなかそれが実際機能するかどうかというのは、本当に慎重に設計をしていかなければいけないし、果たしてそれが本当に公平な支援につながっていくのかということも、しっかりと見定めていかなければならないのかなというふうには思っています。

陳情書を見ると、1番目の項目に107町会の町会構成や体制等の実態把握の調査という項目があるんですけれども、どこまでできるかというのは、それぞれの町会の協力体制ですとか、任意団体ですので、区として踏み込んでいいところ、駄目なところ、可能などころ、それぞれあると思うんですけれども、こういった調査というのは何かやられていら

っしゃるのか、それともこれからこういった要望を受けて動くことが可能なのか、その辺についてはいかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 こちらに関しましてですが、現時点ではちょっとなかなか想定が難しいなというふうに考えているところでございます。町会、団体によっては、もう実質的にかなりお困りになられていまして、ご自分たちのところの実態、正確な状況把握が困難なところもあるというふうには聞いているところでございます。

また、現在の町会の形といたしまして、在住、在勤、在学者、または事業者の方々に構成されているところもあるともちろん聞いているところでございますが、一方で既に転出した方ですとか、その事業所を退職したり、または転勤をされた方、または近隣の大学で町会にいろいろ手伝いをしていた方で、卒業して出ていってしまったんだけど、いまだにお手伝いということで関与してくださっている方と、既に親しんだ町会ということで今でもお手伝いをしてきている方もいらっしゃるというような町会もあるということで、いわゆる様々な構成、関係性で成り立っているところもあるというふうには聞いているところでございます。

こうしたこともございまして、全ての町会のこうした構成を把握していくことが最善の策なのか、または別の視点、例えば先ほどちょっと触れましたが、相談事があるということで、そのお申し出を頂きながら、共に考えながら、どういった支援がいいのか、いわゆるニーズとしてどうなのか、またはそれに合った支援なのかどうかということも一緒に考えながら進めていくような、そういったようなことも検討の一つとして含めて検討を進めてまいりたいという状況でございます。

○大坂委員 なかなか難しいのかなというところは理解いたしますが、やはり現状がどうなのかというところをしっかりと見極めていかなければ、対策というのはなかなかないというのも事実だとは思いますが。

千代田区の場合は、出張所単位でそれぞれ町会が構成されているという仕組みにもなっていますし、各出張所で町会長を集めて町会長会議が定期的に行われていますし、そこでの情報収集というのはかなりしっかりと綿密に行われているものだというふうに認識していますので、そのこのところをうまく機能させながら情報収集はして、引き続きやっていただかなきゃいけないのかなと思っています。

連合町会長会議ですとか婦人部長の会議ですとか、定期的にといても年に何回かしかない中で、偏った意見というか、声の大きな情報しか吸い上げられていかないということだけは避けなきゃいけないと思っていますので、そういった、本当に困ってから切実な思いが届く前に、ほんと困りそうだなというところの情報の吸い上げというところにはしっかりとサポート、それは出張所長の仕事になってしまうのかもしれないんですけども、やっていただければいいのかなというふうには思うんですけども、いかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 ただいまご指摘いただきましたとおり、これまでという言い方になりますでしょうか、様々な会議体を活用させていただきつつも、どちらかというところ行政からのお知らせという、比較的ワンウェイになってしまってきたなというところは反省をしているところでございます。そういった会議でのやり取りも非常に重要ではあるかと思えます。また、ご指摘いただいたように、なかなかそれでは個々の団体様、町会

様の細やかな困り事、ご意見というのがなかなか吸い上げられていないなということも認識してございます。そういったことも踏まえまして、どういった聞き方というんでしょうか、そういったことも今ちょっと頭を悩ませているというところで、何がしか取組ができたらいいなというふうに考えてはございます。

○大坂委員 できればそういった情報の収集については、しっかりと体制を立て直した形で組み合わせていただいて、一定程度、委員会のほうに報告を逐次頂ければありがたいのかなと思います。

もう一つは町会の規模格差の問題ですね。これもなかなか公が手を突っ込むところとしては、うーん、というところはあるのかもしれないですけども、区として現状をどういうふうに認識をされていて、何か対策等々があるのか、施策等を行っているのか、お聞かせください。

○赤海コミュニティ総務課長 こちらの項目に関しましては、補助金制度の見直しということで挙がっているものでございます。千代田区のいわゆる町会の補助金に関してですが、少しご説明させていただきますと、創設が昭和40年度でございます。このときに一律3,000円ということでスタートしております。この後に、昭和52年度に世帯割というものを追加で導入させていただきましたという経緯がございます。その後、均等割と申し上げたものと世帯割に関しましては、ある程度状況に応じていわゆる増額の変更を重ねてきたというような状況がございます。

この町会補助金の性質なんですけれども、私どもといたしましては、防犯、防災、環境美化、子どもや高齢者の見守り、レクリエーションといった、区民の皆様、身近な暮らしに関わる様々な活動について、行政代位的な役割を担っていただいていると、そういったような考えに基づきまして、世帯数を基準としているというような認識でいるところがございます。

ただ、一方で、地域を取り巻く状況ですとか町会を取り巻く状況、社会状況も変化してきておりますけれども、今後こうした町会員の構成を把握しての対応が果たして先ほど申し上げたように最善策なのか、または、これも繰り返しになりますが、別の視点で、補助金に限らず、支援策というものを複合的に考えつつ進めていきたいというようなところにいるところがございます。

○大坂委員 なかなかこれも情報がしっかりと正確な構成が分からない限り、適切な対応策というのは難しいというところはあるのかなというふうに、今お聞きしながら思いました。人が少ないところはやはりどうしても活動というのは限られてしまう中で、昨今、大学のボランティアですとか、そういった方々が地域のイベントに積極的に参加していただけるようになって、大分イベントも開催しやすくなっているのかなというのは町会員の立場から感じるんですけれども、そういったものもうまく活用していただきながら、町会活動が継続して行えるように、活発化していけるように、サポートをしていただくのがいいのかなというふうに思っていますけれども、その点はいかがでしょう。

○赤海コミュニティ総務課長 おっしゃるとおりかと思えます。費用面での支援も、一つこちらにご指摘いただいているようにあろうかと思えます。もう一方で、今、様々な形で、学生ボランティアの方ですとかそういった方々が、いわゆる正式な町会員ではないにしても、イベントなど事業において協力していただいているという実態もあるというふうに認

識してございます。そういったことに対して、いわゆる経費での支援をしていくことも一つあるかと思ひますし、いわゆるソフト的な対応をしていくこともあろうかと思ひております。今それに関しても頭を悩ませているところでございます。

○大坂委員 ありがとうございます。

最後に、新規町会員の加入促進支援対策、これも非常に重要だと思ひています。ただ、なかなかこれ、積極的にというのが難しいのかなというところで、例えば区民体育大会のときとか、そういったところで町会を紹介したりだとか、この前、神保町地区では、活性化委員のイベントの中で町会未加入の方に対して積極的にお声がけをして町会長を紹介するだとか、そういったことは取組としてやっているんですけども、なかなか町会加入にインセンティブをつけて促進するというところまでは、町会というものの性質上、例えば商店街とかだと融資のあっせん制度の中で町会加入が条件で利子率が下がるとか、そういった仕組みがあるんですけども、なかなか町会でそれは難しいのかなというふうには思ひますが、例えば防災グッズを配ったりだとか、そういったようないわゆる販促的なところはできるのかなというふうには思ひますので、そこはうまく何かアイデアを練りながら、全区的にキャンペーンを張ったりだとかというところも、一つやり方としてはあるのかなというふうにも思ひているんですけども、これまで何かそういったことをやってきたのか、それともこれから何か考えていることはあるのか、あればお聞かせください。

○赤海コミュニティ総務課長 例えばインセンティブというか、ではないんですけども、これまで、町会加入促進の一つと申し上げられると思ひますが、主に転入者の方々に対してというふうになってしまいますけども、転入の際にお手続いただいた際に、地域の連合町会のエリアマップというんでしょうか、町会区域のものを配付させていただいたり、町会加入についての幾つかのご案内を封入させていただいたりというような取組はしてありました。じゃあ、それがいわゆるインセンティブになっているかということ、インセンティブのためにということではなくて、いわゆる知っていただく、町会に入っていたきたいなということでの取組でございました。

今後こういった形で進めていくかについてもなんですけども、まずは千代田区の町会ってどういう成り立ちだったのかとか、千代田区の町会ってこういうところなんですよというようなこと、または町会に入ることによって防災とかそういったようなことのために非常にこういうふうになるんですよというようなこと、いわゆる情報発信が我々のほうでは足りていなかったのかなというところがありまして、まずはそこをまず取り組んでいるところでございますけども、併せて町会加入促進の何かも、やはり検討の一つに乗せなければいけないかなというふうには考えているところでございます。

○大坂委員 いろいろと悩んでいらっしゃるということがよく分かりましたが、一方で、我々というか、今、私の質問に対して、しっかりと同じ方向を向いて課題認識はしていただいた上で様々ご検討いただけるのかなというふうに思ひたので、その点については安心はいたしました。いずれにしても、今日質問した項目等々を踏まえてしっかりと検討していただいて、方向性が出た段階で委員会のほうにしっかりと報告をしていただきながら、議論を深めていくことが非常に重要なのかなと思ひています。

先ほど一番最後にありましたけれども、町会の成り立ち等々が大切だということがありました。思うに、やはりなかなかこの町会のサポートというのが難しい一つの要因とし

て、町会というのがやっぱりこの地域に根差した祭礼の文化と本当に強く結びついているところなのかなと。だからこそ公がなかなか手を出しづらいというところではありますが、一方で、区長ももう新年会の挨拶等々で、さんざん祭礼文化が非常に大事だということを言われていますし、我々区議会としてもそういったものをしっかり守っていかなければいけないとの共通認識に立っているところだと思うので、その点も踏まえてしっかりと方向性を導き出していただければなと思っていますので、その点、お願いをしたいと思います。○印出井地域振興部長 ただいま大坂委員から様々な視点でご指摘を頂きました。課長が申し上げたとおり、令和6年から区議会でも、地域コミュニティ、その中核としての町会の役割、支援の在り方、様々な観点からご議論いただいているところでございます。先ほどご指摘のあったように、加入促進、あるいは町会ごとにおける持続可能性の支援、それから補助金の問題とマンパワーの問題、我々としても幾つかそういう視点の中で、町会の今後について検討して、何とか令和7年度予算の中では、打ち手、あるいは打ち手の端緒を示していきたいというふうに思っております。

その中で、やはり千代田区の町会、千代田区全域にわたって様々な祭礼文化があり、それというのは、ぽっと出てきたものではなくて、いずれの地域でも、江戸由来あるいは明治とか、かなり100年を超えるような歴史と文化を継承している祭礼でございます。そういったものを運営することそれ自体が町会の求心力になっております。ただ、一方で、見かけ上、神事との切り分けということについては、やはり様々な課題があるかなというふうに思っています。私ども地域振興部のほうでは文化財も所管しておりますので、そういった観点も含めた今後の祭礼文化とコミュニティ等についてはしっかり検討しつつ、祭礼そのものの運営に当たってのコミュニティとの関わりについても、ご指摘を頂いたことを踏まえ、また、その切り分けの問題については本当に議会とやっぱり共通認識がないと、なかなか我々としても踏み込めないところでありますので、思いを一つにしながら、将来的な祭礼文化とコミュニティの支援についてしっかり検討してまいりたいというふうに思っています。

○小林委員長 ほかにございますか。

○のざわ委員 今、大坂委員にお話しいただいた、具体的なところはちょっと申し上げられないんですが、町会、雪国で雪がすごい迷惑だけど、ほかの方から見るとすごい価値があるみたいに、この千代田区における町会、この町会のコミュニティは物すごく大事だというふうに、ほかの区とか比較してみると物すごく感じまして、歩いていると、必ず最後にお話があるのが、このまちで生まれて、このまちで育て、このまちが大好きだから、このまちで死んで何か問題ありますかみたいな、子どもにもそういう形で頑張ってもらいたいという言葉に全てが、町会に対する愛情、愛があるから、こういう質問も出るのかなということで、この細かいことに関しましては予算委員会等々で、ちょっと今ぱっと、大坂委員がお話しされたんで、ちょっといいアイデアはないんですが、ぜひこのまちの町会を大事にして、地域コミュニティの形成と継承ということに引き続き愛情を持っていろいろ考えていただけたらというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 ご指摘いただきました。先ほどの答弁と少し重なりますが、今非常にいろいろなことを頭の中で悩ませているところでございます。これもやはりご指摘のように、我々行政だけでは何も、全てが完結できるわけではなくて、やはりお住まい

の方々、それから今存在している町会の方々のご協力なしでは、いろいろな目標を達成することができないというふうに認識してございますので、そういった思いもありますため、今いろいろな見直しというか、構築を凶っているところでございます。ご指摘のとおり非常に重く受け止めてございますので、ご理解賜ればと存じます。

○のざわ委員 ありがとうございます。難しいと思うんですが、理想的には本当、107町会の各それぞれの一人一人の気持ちに沿うような形で、この地域コミュニティの形成と継承というのをご検討いただくと、よろしいんじゃないかなというふうに思います。どうぞよろしく願いいたします。

○赤海コミュニティ総務課長 しっかりと検討を進めてまいりたいと思います。

○小林委員長 ほかにございますか。

○入山委員 今回、陳情書が出たということで、こちらの陳情者にとっては、地域、町会、かなり熱い思いがあるということで受け止めてはいるんですけども、一般質問とかでも行いましたけども、町会ができて70年たつ中で、人口構成等々が変わってきてはいると思うので、その中で新しい住民の方をいかに町会に入れていくか、持続可能な町会をつくっていくかということがかなり課題なのかなと思う中で、先ほど課長が説明されていましたが、若者の討論会というのがあったと思うんですけども、どのようないきさつで、どのような内容が話されたのか、ちょっとお伺いさせていただけますか。

○赤海コミュニティ総務課長 今回、試行的に、青年部の方というふうに先ほど申し上げましたが、青年部だけではなくて、町会のいろいろなものを担っていらっしゃる若い方という言い方も含めて、各連合で2名程度でしたけれども、集まっていたかというふうにしました。

これは、いきさつといたしましては、これまでやはり町会長会議ですとか連合町会長会議、それから婦人部長、女性部長の会議などにおきましては、比較のご意見を直接伺うことがこれまでできていたであろうと。先ほどワンウェイの報告ばかりになってしまったとは申し上げておりますけれども、比較的接することが可能であったということがございました。一方で、イベントにしても何にしても、大現場で頑張っているらっしゃる青年部系の方々というんでしょうか、そういった方々と直接お話をお聞きしたりとか、町会長さん、婦人部長さん、女性部長さんたちが抱えているらっしゃる悩みと同じなのか、また異なった視点があるのかというふうにお聞きする機会がなかったということがございましたもので、今回あくまで試行的ではございましたけれども、実施をさせていただいたという状況でございます。

今回ご意見を頂いている中で、ちょっと詳細は割愛させていただきますが、やはり担い手不足とかそういったことに関しては、これまで町会長さん、婦人部長さん、女性部長さんからお聞きしていたようなものとやはり同じようなご意見が多ございました。また、一方で、困り事だけではなくて、連合町会ですとか町会でこういったような工夫でイベントなどをなさっているかということもお聞きしておりまして、今回、実施してよかったなと、手前勝手な言い方になりますけれども、隣の連合町会ですとか、いわゆる麴町地区、神田地区でなかなかこういったことを共通で話す場がなかったということで、そっちはそんなふうにはやっているんだねという、いわゆる相互がお知り合いになるとか、そっち、そっちのやっているんだったら、それはいいねという場が見受けられましたもので、こ

れは非常にいい場だったなというふうに、自画自賛ですけれども思いました。

○入山委員 今、課長のほうから、地域、麴町、神田と地域連携もできたということで、本当に非常に有意義だったのかなと思います。また、その中でよく言われるのが、町会ごとに、町会員は多いんだけども事業をしていないところとか、町会員が少ないんだけども事業をやっているという町会も結構多いと思うんですけども、そういった事業の中で、資金支援というのはどのような枠組みというか仕組みでやられているのでしょうか。

○赤海コミュニティ総務課長 いわゆる町会さんですとか幾つかの団体さんが、一緒に事業、イベントなどを行った際の補助というご質問かと思います。現在、私どものほうでは、地域コミュニティ活動事業助成という名称で、1団体につき15万円でしたでしょうか、交付させていただきまして、これが、少し要件を緩和しつつ、3団体以上であってもなんですが、3団体までで合同で実施をするときには、それぞれに15万円を限度に補助をしますというようなスキームで、今、助成をさせていただいているというもので、運営をさせていただいているというところでございます。

○入山委員 先ほど、今説明を頂きましたけども、年間15万ということだと思んですけども、回数とかもそうなんですけども、回数の緩和、さらには資金面ですね、やっぱり物価の高騰とか人件費の高騰とかもありますので、ぜひそこら辺をちょっと柔軟に考えていただきたいなと思んですけども、いかがですか。

○赤海コミュニティ総務課長 先ほど少し触れさせていただきました、いわゆる団体様に対する補助と合わせまして事業に対する助成も、一律、ある程度の基準というんでしょうか、を設けながら今日まで来ているところでございます。この中で、やはり物価高騰ですとか、そういったようなことが今やはり地域からもご要望で頂いているところがございます。ここに關しましては、単体のそれぞれの補助金をどうするというのも一つ検討の仕方かもしれませんけれども、我々が所管させていただいております様々なコミュニティ関係と申しますでしょうか、そういった補助金全体で、見直しという言い方になりますでしょうか、そういったようなやり方もあろうかなというふうに今考えているところではございます。

○入山委員 ありがとうございます。

ちょっとまた違った質問させていただきますと、4番である町会の規模格差、法人・店舗というものがあるんですけども、店舗・法人なんかは区の中にとっては重要な存在だと思うんですけども、そちらについての、まあ、補助金の見直しとまではなかなか難しいかなと思んですけども、行く行くはどのように店舗・法人なんかは、区民の、区の中でのような立場になっていくとお思いですか。

○赤海コミュニティ総務課長 いわゆる今回の陳情でもご指摘いただいております。コミュニティ施策の一元的推進の中でも一部触れさせていただいておりますが、コミュニティという言葉の中には、今、課題として議論していただいております町会、お住まいの方、お勤めの方、いわゆる在住、在勤、在学者だけでなく、ここで事業を営んでいる方々、それは町会員の方もいらっしゃると思います。そういったこと全てがやはり一つの大きな意味での区民というふうな捉え方はしているものがございます。一方で、その構成をどうというようなことに関しては、どのような把握の仕方ですとか、それを把握することでどうこうというのが、果たして、先ほどの言い方になります、最適なのかどうかについて

も、今ちょっと研究をしているところという状況でございます。

○入山委員 最後に新規町会員の加入促進支援なんですけども、新住民からの意見というのはどのようなものが上がっていますか。

○赤海コミュニティ総務課長 大変恐縮でございます。私がここに来てから、積極的にこういった声があったかというのは、実はちょっと取り寄せていない状況でございます。ただ、過去に聞いたレベルではありますけれども、やはり町会が何をしているところなのかが分からないとか、入ってこういったメリットがあるのかが分からないというようなお声が、転入者の方だけではないかとは思いますが、そういったお声があったというのは耳にしたことがございます。

○入山委員 新しくお住まいの方の意見も重要なのかなと。町会の意見ももちろん重要なんですけども、なぜ入らないとか、なぜ興味がないのかということは必要なのかなと思うので、ぜひそこら辺は、ぜひアンケートでも何でもしていただいて、調べていただきたいなと思います。

以上。

○赤海コミュニティ総務課長 ありがとうございます。そうですね、区民世論調査で定例的にコミュニティに関して幾つか聞いていることがございます。そういったものも活用しながら、世論調査を主に活用しながら、そういった設問項目もあり得るかと思しますので、ちょっと検討させていただきたいと思います。

○小林委員長 いいですか。

今も委員から指摘とか質問が入っているんですけど、質疑をしていますけれども、具体的に例えば新規町会員の加入促進対策といっても、現状、役所が把握している、各町会でやっていることとかの現状が分からないと対策が打てないんで、この辺を一旦整理して、どういうことを各町会がやっているのか、試みているのか、役所はどういうふうにそれを受け止めて、どのようなことを今後対策していくかというまでの整理を一度していただかないと、対策になっているかどうか分からなくなっちゃうんで、それが一つと。

先ほど意見がございましたけれども、町会補助金の制度の見直しといっても、今の現状どういう補助金、先ほど団体補助金と事業に対する補助金とかを組めば15万円になるとかというようなのがありましたけど、今現状でどういうものをどういうレベルで出していて、その例がこんな例があるみたいなのをちょっと1回まとめていただいて、報告していただかないと、これについても見直しをするときにレベル感が合わなくなっちゃうんで、その辺もう一回調査をして、ご報告していただける、随時ご報告していただかないと、これ5項目もあるんで、厳しいかなと思うんで、その辺は検討していただきたいと。

もう一つ言うと、先ほど委員から出ていないんですけど、ご説明の中でもなかったと思う、ないというかあまり積極的に触れていないんですけど、同じような、この千代田区だけでなく、この近隣の自治体も地域コミュニティについて活性化対策をやっていたり困っていたりするのがありますよね。その辺についても、情報交換なり、レベル感を合わせていって、多分悩んでいることはかなり新宿なんかは同じですし、同じような社会現象の中にいるんで、その辺もちょっと調査をしていただいて、コミュニケーションを取っているんであれば、またそれもいいことなんで、報告も頂きたいというようなことを、一つ一つ現状を確認しながら整理をしていって、ご報告をしていただくような形がいいかと思

いますけれども、その辺も併せて検討していただきたいと思いますけど、いかがですか。

○赤海コミュニティ総務課長 ご指摘いただきましたように、町会加入促進に関しても、お話しいただきましたように、現在、各町会さんでどのような工夫をなさっているのか、または工夫ができなくて逆に困っていらっしゃることもあろうかと思えます。そういったことも聞き取っていききたいなというふうには考えてございます。お時間は頂くかもしれませんが、そういったことで、こういったいわゆる支援策があるのかというのを検討してまいりたいと考えているところでございます。

また、二つ目の補助金についても、確かにおっしゃるとおりメニューがどうなっているのかとか、そういったものに関しては、基本的に年度当初に町会長会議などでは、こういったメニューがありますというのはお配りはしてはいるんですけど、なかなかそれだけではご理解を深めていただくことは難しいかもしれませんので、そういったことをまとめていってお示しできるようにしたいなと考えてございます。

また、三つ目の近隣自治体のコミュニティ支援策などにつきましても、今年度まさに近隣区に担当者が出向いて、いろいろ聞き取りなどを進めているところでございます。資料収集なども行っているところでございまして、こういったことを、各区の取組状況などをまとめられましたら、ご報告をさせていただきながら、相談させていただきながら進めてまいりたいと考えてございます。

○小林委員長 ほかにございますか。質疑はよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 大丈夫ですか。それでは、質疑がないので、本陳情に関する質疑を終了いたします。本陳情につきまして、委員の皆様から多くのご質疑を頂きました。皆様からの意見等がございましたら、お願いしたいと思います。

○大坂委員 るる意見がありました。ただ、冒頭、委員長のほうから整理をしていただいたとおり、この陳情書に関しては特別委員会の設置を求める陳情という形になっています。千代田区議会においては、この公式な会議体で特別委員会の設置について議論するということはこれまでしてこなかったという点もありますので、なかなかこの陳情を採択するか検討していくということは難しいのかなというふうに思っています。一方で、この陳情者が要望しているこの五つの項目の検討、これについては、これまでの議論の中でも分かるとおり、執行機関側も、そして我々区議会側も、しっかりと課題として認識をして、前に進めていこうという共通認識があるところでもありますし、情報提供の中でも令和7年度の予算の中で新たな取組もしていただけるといっても明らかになっていますので、一旦この陳情については本日の議論の議事録をもってお返しをし終了していく中で、引き続きこの企画総務委員会の所管の事項の中でしっかりと議論を進めていくということで進めていってはいかがかなというふうに思っているんですけども、どうでしょう。

○小林委員長 はい。ただいま取扱い、意見と取扱いの話になりましたけど、この併せて、この今大坂委員から発言いただきましたけれども、委員会としてこの陳情の取扱いをどう持っていくかということをちょっと諮りたいと思えますけど、いかがですか。

○米田委員 大坂委員の述べられたとおり、議事録をつけてこの陳情者にお返しして、この陳情を終了してもいいんじゃないかなと。

○小林委員長 はい。ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 そうしたら、今、大坂委員からも指摘がございましたように、この陳情につきましては、今までの議論、議事録を委員の方にお示しし、陳情自体については終了させていただきますと。ただ、五つの課題が地域振興部の所管、うちの所管部分になるので、それについては引き続き委員会のほうで報告を頂きながら進めるという扱いにしたいと思います。

執行機関のほうはいかがでございますか。それでよろしゅうございますか。

○印出井地域振興部長 今、委員長からご指摘を頂きました。陳情の趣旨はまさに先ほど大坂委員にご指摘いただいたところであるのかなと思いつつ、ここで示された課題については、まさしく我々地域振興部が取り組むべき一丁目一番地の課題が並べられているというふうに認識してございますので、来年度予算の審議の中で、委員会は違いますけれども、審議の中でご議論いただくこと。一方で、来年度予算だけで解決するようなテーマでもございませんので、継続して、我々のほうとしても、今日頂いたご意見を踏まえて、ご報告できるように取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○小林委員長 はい。それでは、この陳情についてですけれども、本陳情については、大坂委員の発言があったとおり、議事録をもってお返しすると、ご報告をするということで、本陳情については審査を終了することといたしますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小林委員長 はい。それでは、以上で、日程1、陳情審査を終了いたします。